

青春スクロール

母校群像記

<http://t.asahi.com/dnnn>

アナウンサー、放送部から運動部から

アナウンサーになった多摩高校の卒業生たちは――。

インターネットが無い時代、若者の楽しみはラジオだった。深夜放送の「オールナイトニッポン」で人気者になったくり万太郎（64、1968年卒、本名・高橋良一）は放送特別委員会（THBC）に所属。「多摩川で発声練習した。多摩高は都市にあって、田舎の雰囲気があるのが良かった」。今も日曜午前5時から番組を持つ。

元フジテレビの陣内誠（62、70年卒）はサッカー部OB会



多摩高校 ③

長。「元日以外、364日練習」だったが、「元日本代表の奥寺康彦氏がいた相模工大付属（現湘南工大付属）と県大会決勝で3度戦い、全部負けました」。今は東京・新宿のスタジオアルタ専務を務める。

テレビ朝日の矢島悠子（31、2001年卒）は2年の時、NHK杯全国高校放送コンテストアナウンス部門で県3位、3年で県1位に。「小学校から大学までで一番大切な学校。THBC顧問の先生に『矢島は多摩高らしい子だね』と言われたのが

「言葉を大切にしたい」。話すだけでなく、書くことも好きな矢島



一番のステータスです」

矢島の同期、長野放送の大谷香奈絵（31、01年卒）は吹奏楽部に加え、インドシナ難民らに日本語を教えるボランティアもした。「体育祭は副団長。学校

に泊まり込み、寝ずにマスコットを作った」。今月、当時の同級生と結婚。「子どもも多摩高に入れられたら」と笑う。

元中部日本放送の阿部恵（46、1986年卒）は野球部マネージャー。局アナを辞めた後は国会議員の政策秘書などを歴任した。「10円玉の公衆電話から他校に練習試合を申し込む時、短



一輪車も乗りこなすという大谷。夫は高校の同級生

く終わるよう工夫したお陰で折衝能力が付き、秘書の仕事に役立った」と話す。

テレ朝の板倉朋希（28、2004年卒）は「草食系と見られがちだが、野球部で投手でした」。体育祭は秋組団長。3年夏の神奈川大会3回戦、シードの厚木西にサヨナラ負けしたのが悔しくて「数年前まで夢に出てきた」と苦笑いする。

NHK「おはよう日本」キャスターの糸井羊司（36、1996年卒）はTHBCと吹奏楽部を掛け持ちし、3年のNHK杯では全国の決勝に残った。ほぼ毎日、学校の食堂を利用したが「昼休みの校内放送に備えて、3、4時間目の間の休みに5分

小学生の時、「ザ・ベストテン」を見てアナウンサーを志した糸井



で食べた。その技が今も役立ってます」と懐かしむ。

「おはよう日本」スポーツキャスターの筒井亮太郎（34、98年卒）はサッカー部員だった。「桐光学園の1年上に中村俊輔選手がいて、多摩高にも練習試合に来た」と振り返る。体育祭では夏組団長。「今でも一番連絡を取るのには高校時代の友人。人生で一番良い時期だった」